

新・奥の細道

一周ルート

23

斜平の自然と笹野一刀彫りを訪ねるみち

nadera-no-sizen-to-sasanoittobori-o-tazuneru-miti



山形県

周辺のアクセスガイド

米沢市笹野までは
米沢駅から緒仏バス停までバスで15分
米沢市館山までは
米沢駅から館山局前バス停までバスで15分



観光・宿泊のお問合せ	米沢観光協会 〒992 米沢市内1-3-60 置賜広域観光案内センター 〒992 米沢市駅前1-1-43	☎0238-21-6226 ☎0238-24-2965
交通のお問合せ	JR米沢駅 〒992 米沢市駅前1-1-43 山形交通(株)米沢営業所 〒992 米沢市駅前2-2-58	☎0238-22-1131 ☎0238-22-3392
コースのお問合せ	米沢市商工観光課 〒992 米沢市金池5-2-25 山形県環境保護課 〒990-70 山形市松波2-8-1	☎0238-22-5111 ☎0236-30-2206

表紙の写真はカモンシカ

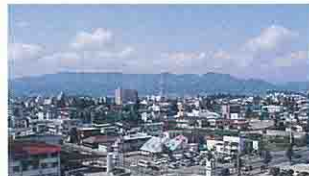
GUIDE

みどころ案内

斜平山(なでらやま)

Nadera-yama

斜平山(なでらやま)とは米沢市の西の郊外に位置する羽山、愛宕山、笹野山、栃窪山、三郎沢山等標高500m~620mの山々が南北に連なる峰をいいます。語源は「雪崩が起きる山」がそのままの名となっており、それが漢字で斜平山と書くようになったという説が最も有力です。他に山ろくに7つの寺があったことから七寺山といわれるようになったという説もあります。斜平山の特色はその植物の多彩さにあり、ユキツバキ、ヒトリシズカ、キバナイカリソウ等約500種類の植物が自生しています。



米沢市街と斜平山



Sasano-kannon

笹野観音

奈良時代・大同元年(806)弘法大師の高弟徳一上人が開基したと伝えられています。伊達氏・上杉氏の信仰も厚く、現在の御堂は天保4年(1833)の火災にかかったものを天保14年(1843)に第12代米沢藩主上杉齊憲公(上杉氏13代当主)が再建したものです。総ケヤキ造り・規模宏壮・彫刻の精巧さは、当地方にまれな伽藍であり、本尊は千手千眼観世音菩薩(せんじゆせんげんかんぜおんぼさつ)となっています。初夏には境内にあるアジサイが見事な花をつけるため、アジサイ寺を訪ねる道(一周ルート22)の松心山善光寺と共にアジサイ寺の異名があります。例祭は毎年1月17日に行われ、雪中の境内で山伏による火渡行が行われます。



※火渡行...燃えさかる炭の上を呪文を唱えながら裸足で渡る修行

笹野一刀彫

Sasano-ittobori

笹野一刀彫とは、上杉鷹山公が農家の副業として奨励したと伝えられている、削りかけの木彫りで、笹野観音のある笹野地区の古くからの特産品です。サルキリと称する独特の刃物一本で彫りあげることから笹野一刀彫と呼ばれています。笹野彫の代表としてはオタカ(鷹)ポッポが有名ですが、他にもオナガドリ、セキレイ、フクロウ、クジャク等30余種と十二支にちなんだイヌ、サル、ヒツジ等も製作されています。近年はアメリカやヨーロッパにも輸出されており、芸術性に富んだ玩具として高く評価されています。笹野観音に進む参道沿いに、笹野民芸館のほか、一刀彫を実演・販売する工人たちの工房が点在しています。



■笹野彫実演見学所(いずれも連絡が必要)
笹野彫協同組合 ☎0238-38-3601 高橋 信行 ☎0238-38-3318
笹野民芸館 ☎0238-38-4288 戸田 一郎・寒風 ☎0238-38-3200
情野 二男 ☎0238-38-3566

斜平山(なでらやま)には草木あわせて約500種類の植物が自生していることが確認されています。低山植物から深山植物まで産する多彩な山といえます。市街地に近く、また面積もさほど大きくない山(約1500ha)でこれ程多くの植物を産するところは珍しいとされています。植物が多いため動物類も多く特に小鳥類が豊富であり、オオルリ、キビタキ、ウグイス、アオゲラ等のさえずりが聞かれます。このコースには所々に米沢市街を一望できる地点があり、その景観は一見の価値があります。また、起点の笹野地区は、笹野一刀彫の里でもあり、その作品は素朴さのなかにも気品が漂うものとなっています。

愛宕神社

Atago-jinja

大同2年(807)の創建と伝えられています。歴代の領主の崇敬が深く、特に上杉鷹山公が明和8年(1771)6月5日、長期のかんぱつを憂い愛宕山山頂の御堂に参拝し、雨乞いを祈願されたという逸話も残っており、現在では「鷹山公雨乞之碑」が立てられています。山頂にあるのが愛宕神社本宮(奥の院)であり、これは明治12年に造営されたものです。ふもとは愛宕神社口の宮が鎮座しています。毎年8月1日に愛宕火祭りが行われ、松明の灯の行列を見ることができます。



愛宕神社本宮
上杉鷹山(治憲) 1751~1822

8代藩主が幕府に領土の返納を決議するほど逼迫した藩財政を産業復興・大倭約令によって建て直した第9代米沢藩主(上杉氏10代当主)。また鷹山が家督を譲る際に藩主の心得を示した「伝国の辞」は民主主義の根本思想を先取りしたものであった。かつてケネディ米大統領が記者会見のとき「尊敬する日本人は?」との質問に上杉鷹山と答えた逸話がある。



鷹山公雨乞之碑

羽山神社

Hayama-jinja

羽山神社の創立は不明ですが推測によると大同年間(806~809)に風雨不順により、五穀が実らず、疫病が流行した際に、地元郷民が病滅豊作を祈願して建立したのと思われまます。また江戸時代には愛宕神社と同様に上杉氏の信仰を受け、初代米沢藩主景勝公(上杉氏2代当主)が社領25石を寄進したほか、第2代目米沢藩主定勝公(上杉氏3代当主)が寛永7年(1630)修殿を修造しましたが明治4年に焼失したため、現在残っているものは同年新築されたものです。



羽山神社

御成山公園(館山公園)

Onariyama-koen(Tateyama-koen)

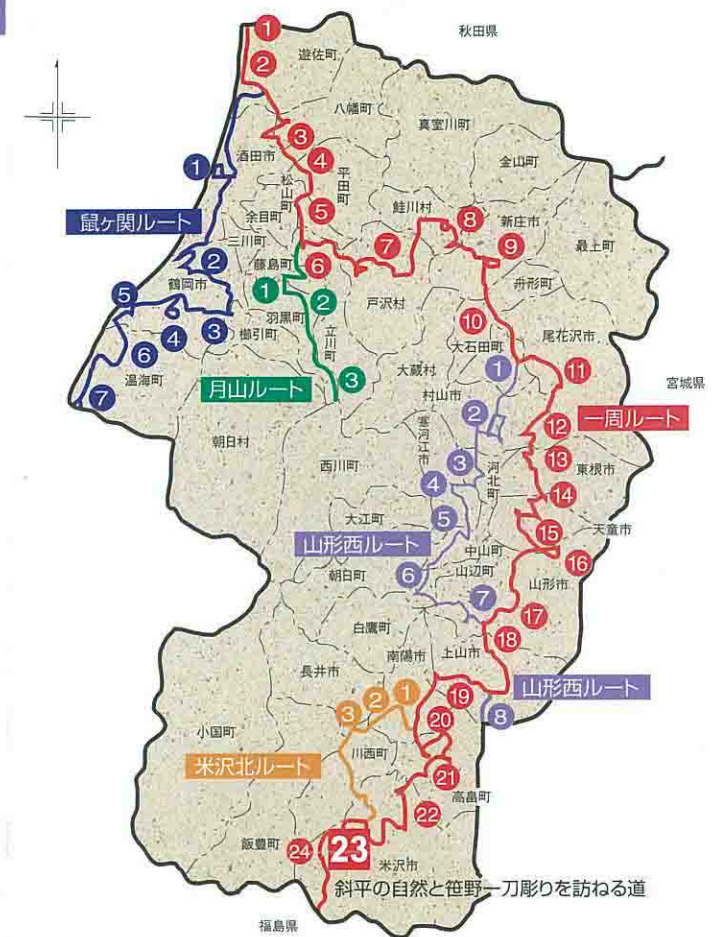
斜平山の北端に位置する公園であり、ソメイヨシノ、八重桜等約1000本が植えられ、シーズンには桜の名所として花見やハイキングでにぎわいます。また公園内には夏でもジャンプ競技ができるジャンツェがあります。以前は化物沢スキー場と呼ばれていましたが、昭和11年1月19日ここで開催された全国インターカレッジに秩父宮殿下をお迎えしたことを記念して、御成山スキー場(ジャンツェ)と改称しました。



御成山公園

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



“新・奥の細道”とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特徴ある文化や歴史と親しむためのみちです。“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といえます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経路して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469Kmとなっています。

- この“新・奥の細道”を楽しむために
- 1.コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
 - 2.歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
 - 3.天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。
- この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発!

おねがい

- ・ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
 - ・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
 - ・案内板や休憩所はみんなのもので、大切にしましょう。
 - ・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
- そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金還元融資を受けてつくられました。